暮らしの彩り、日々の道しるべに
2023年版カレンダー

鎌倉・逗子の四季

IZA鎌倉

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で盛り上がった鎌倉。鎌倉市観光協会が作製した、今回23作目のカレンダーは「IZA（いざ）鎌倉」。

鎌倉の伝統行事の流鏑馬、静の舞、薪能が表紙を飾り、2カ月ごとに鎌倉などでは風景写真を掲載している。写真は主に同協会主催のフォトコンテスト・2月は明月院の円窓と雪景色（雪の悟りの窓」（吉川亜紀さん）、3・4月は建長寺の満開のサクラ（春爛漫）（早野未明さん）、7・8月大輪のハスから飛び出してきたハチ「夏だ飛び出せ」（三井田ひろみさん）、9・10月は夕日に照らされて走る江ノ電

鎌倉彩光

本紙1面「鎌倉みほとけ紀行」でおなじみの"古都グラファー"原田寛さんの作品集「鎌倉彩光」。『湘南スタイル』の編集で、鎌倉の四季12景を1カ月ごとに掲載。

表紙の長谷寺のサクラに始まり、1月は雪の浄智寺、2月の常立寺のウメ、3月の九品寺のボケ、4月の鶴岡八幡宮のサクラと寺社を彩る花々が色鮮やかに写し出す。7月の本覚寺のハスや11月の妙本寺のイチョウ黄葉からは神々しさがかもし出され、10月の稲村ガ崎の海岸に咲くソワブキの向こうに望む江の島など、鎌倉ならではの風景に心和む。「鎌倉の四季花暦」も掲載している。1650円（税込み）。星月写真企画☎0467・23・3694

江ノ電カレンダー

1902年の鉄道開業から今年、120周年を迎えた江ノ電。

地域の公共機関として生活の中に溶け込むとともに、観光客にも愛されている江ノ電の姿を、藤沢市にアトリエをもつ画家湯浅誠さんが描く。

江ノ電沿線の風景画7点で構成するカレンダーは、今年で12作目。

表紙の「藤沢駅俯瞰」は、江ノ電藤沢駅周辺を上方から捉えた絵で、絵の下に「いざ鎌倉＋古武士の心構え　今は江ノ電で」のコメントがある。

1・2月の「七里ヶ浜の水仙」、3・4月「段葛の桜」、7・8月「海からの鎌倉高校前駅」、11・12月「夕日の踏切」ほか、四季の移ろいの中で江ノ電とともに行き交う人の姿や自転車などがほのぼのと描かれている。

A3判、1300円（税込み）。江ノ電主要駅や売店などで販売。

暮らしとともに

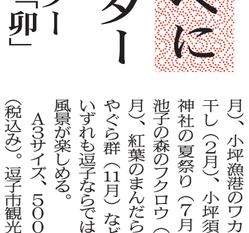
湘南モノレール

「乗って楽しい、撮って楽しい」湘南モノレールの魅力が存分につまったカレンダー。

今年で6回目となる「2023年カレンダーフォトコンテスト」の多数の応募作品から選ばれた入賞作品14点で構成。

表紙は最優秀作品「瞬発閃光」（小路貴亮さん）で、車両の上部の空間に太陽が入り、まるで車両自体から光が出ているように撮影している。

12月の疾走する写真（宮側雅之さん）から始まり、1月は富士山を背景に（長谷田一平さん）、2月「雪の日」（松山進さん）、3月「そらへ…」（後藤秀人さん）、4月「桜の季節」（矢島崇さん）、5月「ツツジロード・初夏の風」（勢津文忠さん）、6月のアジサイと（林亮一さん）、7月は花火と（和田一彦さん）、8月は海を背景に（山田啓之さん）、9月の田園風景（関根克義さん）、10月背景に（長谷田一平さん）、2月「雪の日」（松山進さん）、3月「そらへ…」（後藤秀人さん）、4月「桜の季節」（矢島崇さん）、5月「ツツジ



「地面すれすれっ！」（石黒泰大さん）、11月「紅葉散策」（桑原岳志さん）、12月は夜景（竹田孝旭さん）と、力作ぞろい。

見開きA3判、700円（税込み）。湘南モノレール☎0467・45・3181

逗子海岸のウインドサーフィン

逗子市観光協会は「逗子旅プロジェクト」企画で過去3回、「逗子旅カレンダーフォトコンテスト」の入賞作品でカレンダーを作製してきた。今年はコロナ禍でフォトコンが中止となったため、「逗子旅サイト」「逗子フォト」の作品で作製。

表紙は、来年の干支、ウサギにちなんで、大崎公園のウサギを題材に。表紙を含めて13点の写真で構成されている。

逗子海岸（1月）・花火大会（5月）・NIGHT WAVE（10月）、小坪漁港のワカメ干し（2月）、小坪須賀神社の夏祭り（7月）、池子の森のフクロウ（9月）、紅葉のまんだら堂やくら群（11月）など、いずれも逗子ならではの風景が楽しめる。

A3サイズ、500円（税込み）。逗子市観光協会（市役所の商経済観光課内）、スズキヤなどで販売。逗子市観光協会☎046・873・1111

古に思いをはせて

万葉　野の花

万葉集に詠まれている野の花を水彩で描き、万葉歌を添えている。絵と書は鎌倉市在住の野の花画家・阿見みどりさん。

1月は小竹とツバキで「小竹の葉はみ山もさやに乱るともわれは妹ら別れ来ぬれば　柿本人麻呂」。7月はネムノハナで「吾妹子が形見の合歓木は花のみに咲きてけだしく実もならじかも　大伴家持」と、月ごとに野の花がしなやかな線とやさしい色彩で描かれていて、添えられた歌も味わい深い。

卓上カレンダーは意訳・英訳付きで1650円（税込み）。

このほか、和紙を使用したA4判額絵カレンダーは、意訳・英訳付き、880円（税込み）。ミニカレンダーは意訳付き550円（税込み）。銀の鈴社☎0467・61・1930

高僧の書や伝統文化

天下 禅林

北鎌倉の臨済宗建長寺派大本山建長寺の発行。臨済宗建長寺僧堂相林室・酒井泰玄老師の揮毫の書で構成。

1・2月の「福禄寿」に始まり、3・4月「雲無心」、5・6月「花無心」、7・8月「瀧自涼風」（瀧自ずから涼風来たる）、9・10月の「日々是好日」11・12月の「担雪填井（雪を担って井を填む）」で締めくくる。

現代語表記が添えられ、月ごとの同寺の行事予定も記載。書は台紙から取り外して墨書作品として飾ることもできる。

タテ730ミリ×ヨコ310ミリ。1500円（税込み）。総門左側の朱印所で販売。建長寺☎0467・22・0981

慈光

北鎌倉の臨済宗円覚寺発行のカレンダー。

臨済宗円覚寺派第218世管長横田南嶺老師の揮毫の書画13作。

表紙の「慈光」から始まり、1月は「日新日日新（日に新たに日々に新たなり）」、4月は「道は前にある　まっすぐに行こう　山頭火」、10月は墨絵の上に「廓然無聖」、そして12月「光陰惜しむべし」で締めくくられる。

卓上タイプでタテ10・5ミリ×ヨコ20・5ミリ。605円（税込）、境内売店で販売。円覚寺☎0467・22・0478

かまくらカレンダー 2023

鎌倉在住のイラストレーター伊東雅江さんによるカレンダー。鎌倉近郊の名所や建築物が12カ月を彩る。イラストの解説文（「かまくら茶話」）付き。

タテ10・5ミリ×ヨコ14・8ミリ。1100円（税込み）。

12月中旬ごろから鎌倉市川喜多映画記念館、たらば書房、一翠堂などで販売。

アート作品

ほっこりアートカレンダー

障害者の就労支援を目的に活動する特定非営利活動法人「道」は今年設立20周年を迎えた。同法人が運営する障害者福祉サービス事業所「道工房」では、障害の有無に関係なくアートをコミュニケーションツールとして会員たちが独創性あふれる制作に取り組み、毎年カレンダーを作製している。

ウサギや妖精、風鈴、夕暮れ、クリスマス飾りなど、どれも豊かな感受性とやさしさあふれ、「ほっこり」する絵画12作品を集めた。

見開きA3判、900円（税込み）。道ギャラリー、島森書店、有隣堂藤沢店などで販売。収益は絵の作者たちのデザイン料に。道工房☎0467・23・8772

心のふる里を行く ㊾

八雲と巡る鎌倉・江の島の旅

池田雅之

10月11日は秋晴れですがすがしい天気に恵まれ、私たちは20人ほどで小泉八雲の足跡を巡る鎌倉・江の島バスツアーに出かけた。130年昔、八雲があかず眺めたであろう当地のランド・スケープを追体験する巡礼の旅である。3、4年前から藤沢のカルチャーセンター・湘南アカデミアで八雲と古事記の講座を担当しているが、今回初めて野外活動を行うことになった。

円覚寺総門前に集まり、江の島・藤沢へと至る1日コースの小旅行である。まず円覚寺塔頭・帰源院の富澤ご住職から帰源院の由来や、洪鐘（共鐘）のお話を頂き、建長寺の塔頭・円応寺に向かった。寺ではご住職がわざわざお迎えくださった。そして、閻魔様八雲があかず眺めたであろう一つの性格、優しさ、包容力について貴重な話をされた。建長寺のご本尊の地蔵菩薩と閻魔様は一身同体といわれていることからも、必ずしも、人間を裁き、地獄送りするだけの仏様ではないことを知った。

それから私たち一行は鎌倉市内を通り、高徳院の大仏見学に向かった。鎌倉の大仏は、八雲が大変感激した仏様である。八雲は大仏様の慈顔に日本人のおだやかな表情を重ね合わせた。大仏様の静けさに満たされたお顔から八雲は日本人の霊性を読み取ったようだ。

私たちのバスは、鎌倉大仏参拝から一路、江の島・藤沢へとひた走った。ここから私たちは、八雲が立ち寄ったと伝わる珍しい3つのスポットに足を運んだ。

まず1つは、極楽寺への道すがらに立つ日限地蔵尊である。八雲が見たのは朽ち果てた六地蔵であったが、今は改修され、シャッターがつけられていた。

江の島神社では神官様から神社の由来と弁天信仰について心のこもった説明がありがたかった。

この後、私たちは、藤沢の柄沢にある隆昌院をお訪ねした。隆昌院は日蓮宗の寺であるが、鬼子母神をお祀りする寺として地元では知られている。ここでもご住職にお出ましご頂き、隆昌院と八雲の関係を詳しくお話していただいた。鬼子母神は母の子への愛を表し、母性の神である。八雲は幼少期に母と生き別れ、生涯、母なるものを求めていた。八雲のこの心が、街の中心から離れたところにある隆昌院を探し当て、そこで、とても小さな鬼子母神様にあったのである。

最後に私たちが訪れたのは、藤沢駅北口付近にある庚申堂である。このお堂は、町ゆく人には到底気づかれないような質素なお堂である。八雲はこの道の神を祀るお堂を見て、日本の近代化とともに、廃れゆく日本の神々の末路におもいを馳せた。こうして、八雲の巡礼のバスツアーは終わったのである。

八雲ツアーの皆さんと江の島で＝後列中ほどが筆者

アルベ入居者の急病に多額の募金集まる

演劇生かしたメンタルヘルス支援も

ジャーナリスト　佐藤光展

祖国の紛争などで日本に逃れ、難民申請中の人たちが身を寄せるシェルター「アルベなんみんセンター」（鎌倉市十二所）。縁に囲まれたこの施設を、鎌倉朝日の取材で訪れてから1年になる。

同センターは、イエスス会修道院の土地と建物を借りて、NPO法人アルベなんみんセンターが2020年4月から運営している。今年11月半ば時点の入居者は8カ国、13人。今夏はウクライナ避難民も一時受け入れた。運営費は全国からの寄付金でまかなっている。

また開設3年だが、今年11月には、神奈川県弁護士会から人権賞が贈られた。センター事務局長の有川憲治さんは授賞スピーチで「国を追われた難民と友達、友人となり、名前で呼び合い、互いに支え合う関係づくりを地域社会で進める。これが私たちのミッションであり、地域全体で取り組むミッションでもある」と語った。

日本でカレー店を開きたいというスリランカ出身の男性リヴィさんは、センターを訪れるように特製のカレーやミルクティーを振る舞っている。

敷地内の畑では、入居者と近隣住民が一緒に野菜を育てている。リヴィさんら市内の小学校を訪問して、体験を子どもたちに伝える活動も始めており、鎌倉市民との交流が深まっている。

リヴィさんが入れてくれるスリランカ風ミルクティー

そして、介護の資格を取ってセンターを巣立ち、働き始める人なども出てきた。だが、何年待っても難民認定されない入居者たちは、働いて金銭を得ることを禁じられているため自立できない。健康保険も使えないので、大病を患って治療を受けると多額の医療費がのしかかってくる。

今年9月、恐れていた事態が起こった。バングラディッシュ出身の50代の男性が突然、脳梗塞で倒れたのだ。治療で命は助かったが、病院に医療費の全額自己負担を求められ、以後のリハビリも宙に浮く状況に直面した。

この危機を救ったのが、多くの人の善意だった。センターが男性のための募金を10月末まで呼びかけたところ、600万円に到達。リハビリは済生会の系列病院が無料低額診療で受け入れてくれた。

しかし、不安な境遇が長年続く入居者には、メンタルヘルスの不調も襲い掛かる。有川さんは語る。「自分で生きる力があるのに、全てを人に依存して生きざるを得ない生活はつらい。だから自分の殻に閉じこもる人もいる。難民認定や在留資格が出る目途が立たないと、将来への意欲を持ち続けるのは難しい。温かい支援に感謝し、笑顔をみせている入居者でも、心の奥底には忍耐と悲哀がある」。

入居者の中には、うつ病やPTSDを患う人がかなりいる。精神科医の協力なしに診察は受けられるが、ここの不調からの回復には医療以外のサポートも欠かせない。

そこで、筆者が有川さんに提案したのが、演劇を活用したメンタルヘルスサポートだ。筆者は近年、ジャーナリストとしての活動の他に、精神疾患のある人を対象とした演劇学校「OTTBACKアクターズスクール」に関わっている。スクール生の実体験をもとに、半年以上かけてオリジナル劇を作り、本格的な舞台を有料公演を行う。開校2年目ながら注目を集め、神奈川県の補助金や横浜市関連の助成金を受けている。

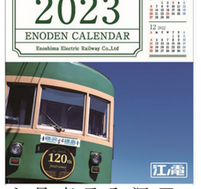
今年11月の横浜公演も満員札止めとなる人気で、出演者たちのメンタルヘルスは劇的に改善した。演劇づくりを通して自己の体験を捉え直したり、上下関係のない仲間との一体感を味わったり、観客を深く感動させたりする体験が、医療に負けない効果を生み出しているのだ。スクールのウェブサイトに動画も掲載しているのでご覧いただきたい。

スクールの練習拠点は横浜だが、新たな練習拠点としてセンターを使わせてもらい、入居者を交えた定期的なワークショップを実施したいと考えている。そして来年中には、入居者も出演する公演を横浜か鎌倉で開催したい。その先に、国籍も心身の障害も関係なく、いろんな人たちがごちゃまぜに暮らす楽しい社会を見据えながら。

鎌倉彩光

江ノ電一日乗車券「のりおりくん」付き卓上カレンダー

今回の写真は、「オスマガジン×江ノ電 鎌倉よりみちフォトコンテスト」の6千点以上の応募作品から「江ノ電カレンダー賞」に選出された13点。



表紙は、江ノ電開業120周年のヘッドマークを付けた車両で、富士山、夕日、サクラ、アジサイ、鎌倉高校駅、湘南の宝石など、江ノ電沿線の季節の移ろいや人気スポットの写真が月ごとに並ぶ。タテ175ミリ×ヨコ153ミリ。使用後はポストカードとして利用可。

鎌倉彫カレンダー

中世宗様仏具を源流とする鎌倉彫の中から室町時代～明治・大正期にかけて制作された作品を中心に掲載している。

1・2月の「菊唐草硯箱」から始まり、3・4月「牡丹文軸盆」、5・6月「蓮池文透彫経机」と多様な用途で制作された品々が紹介されている。

7・8月「蝶蛸蛤文硯箱」、9・10月「払子」、11・12月「竹生島」（4月）、「羽衣」（5月）、「氷室」（6月）、「現在七面」（12月）など春夏秋冬の能の名場面が紹介されている。

シテを演ずるのは同能舞台主宰の中森貫太さんと、健之介さん親子。

能面や豪華絢爛な衣装は見応えがある。能と狂言について英文で紹介されている。

鎌倉能舞台

鎌倉能舞台が発行しているカレンダー。

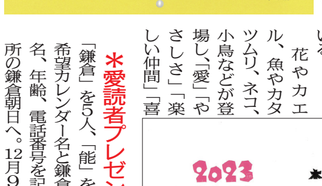
見開きA3判、1430円（税込み）。

問い合わせ鎌倉能舞台☎鎌倉市長谷3-15-13☎0467・22・5557

鎌倉ボンズくん

寺社を中心に鎌倉の魅力を発信するメッセンジャーとして登場したキャラクター「鎌倉ボンズくん」が昨年10周年を迎えるにあたり作られたカレンダーで、2作目。

ボンズくんと相棒犬いるもんのイラストが月ごとに掲載されている。1月は富士山を背に雪だるま、2月は「福来たる」と豆まき、5月はこいのぼりで空を泳いだり、8月はサーフィン、10月はラジオ体操をしたりしてユーモラスに描かれている。



鎌倉のお寺や神社の主な行事
・清月の日　12の神様
・お参りのこ様 33

鎌倉ボンズくんの寺社の行事、禅語やお参りの心得も載っている。満月の日マーク入り。

1192円、鎌倉・北鎌倉・大船・藤沢、各駅周辺の書店や通信販売で。（売り上げの3%を鎌倉風致保存会に寄付）

木版画高橋幸子 2023カレンダー

"心の版画家"と呼ばれる逗子在住の高橋幸子さん（81）の2023年のカレンダーは「すてきな焼き菓子の作り方読本」。

見開きA3判、1100円（税込み）。高橋方☎046・871・5074

昨年のかまくらカレンダー

1月から12月まで、19枚のほのぼのとした版画にレシピを載せている。

花やカエル、魚やカタツムリ、ネコ、小鳥などが登場し、「愛」「やさしさ」「楽しい仲間」「喜び」などを混ぜ合わせたお菓子が出来上がる。

見開きA3判、1100円（税込み）。

＊愛読者プレゼント

「鎌倉」を5人、「能」を10人に。往復ハガキに希望カレンダー名と鎌倉朝日の感想、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、1面題字下の住所の鎌倉朝日へ。12月9日消印有効。多数抽選。

1500円（税込み）、藤沢、江ノ島、長谷、鎌倉駅で販売。江ノ電エリアサービス☎0466・23・2225